

今年度(令和5年度)取り組む予定のがん対策 施設名【 県立八重山病院 】

1. 予防(喫煙、感染、飲酒など)

現在、当院には、喫煙、飲酒等に関する八重山医療圏の情報はほとんどないので、これらの情報があると思われる保健所等との連携を考えたい。

2. 検診・早期発見

検診事業は実施していない(当院の余力から現状では実施は難しいと思われる)。二次検診については、特に消化器領域などには積極的に参画していきたい。

3. 医療提供体制(3療法、チーム医療、医療連携、ゲノム、病理、新規実装など)

免疫チェックポイント阻害剤や、複雑な化学療法など、近年、化学療法に対する要望が高まっている。また、本島や本土の施設で治療を受けた後に、高度な化学療法の継続を求められることも増えている。このような要望に対応できるように、化学療法室の充実、irAE委員会などチーム医療体制の強化、グループ指定先である中部病院との連携の強化、等を図りたい。月1回、呼吸器内科と薬剤師、がん化学療法認定看護師でirAE委員会開催している。又、月に1、2回内科医が中部病院から来て診察を行ったりと連携をとっている。

4. 支持療法(緩和、在宅、支持、リハビリ、妊孕性など)

支援療法については、緩和ケアチームを中心に、在宅医療のチーム、院外の訪問看護ステーション等とも連携を強め、患者さんが望む医療を提供できる体制の構築に引き続き努めたい。また、昨年度実施した、老健施設との看取りのカンファレンスは継続していきたい。→継続している。

5. 個別医療(希少、難治、小児、AYA世代、高齢者、離島・へき地など)

希少がん、難治がん、小児がん、AYA世代等に対する対応は、当院単独では困難であるので、本島の施設との連携を強化していきたい。

高齢者対策としては、がん相談支援センターを介し、高齢者のがん治療に対しても、生活全体を見る視点を失わず、チーム医療で取り組みたい。

離島・へき地の当事者としてとして、患者会等と連携し、引き続き、離島の住民が標準的ながん治療を受けられる体制の構築(治療の均てん化)に取り組みたい。

6. 情報提供・相談支援

当院職員の相談支援センターの存在に関する認識は高いと思われるが、今年度は、当院を受診するすべての癌患者・家族が、相談支援センターを一度は確実に訪れる事ができる体制を構築したい。

→構築出来ている。

- ・外来にがん相談に関する掲示をしている。
- ・病院HPにもがん相談に関する紹介がある。
- ・病院の入口にがん相談コーナーと看板あり。
- ・外来に主治医から連絡あり次第、相談員が同席出来る体制あり。

7. 就労支援

個々の事例に関しては、相談支援センターを中心に、がん相談員、主治医、看護師、ケースワーカー、など多職種で問題解決に取り組んでいる。今年度は、個々の患者さんの就労に関する悩みや希望が、確実に相談支援センター(相談員)に伝わり、問題解決に結び付けられるような体制の構築を目指したい。

→沖縄産業保険総合支援センターと連携している。相談があったら、石垣島の社労士と面談を組む体制をとっている。今年の9月6日には、沖縄産業保険総合支援センターと石垣島の社労士、当院の地域連携室のスタッフで情報共有、勉強会を開いた。

8. 社会的な問題への対策(アピアランスケア、自殺対策、疎外感の解消、偏見の解消など)

個々の問題については、相談支援センターを中心に対応している。社会的な問題の存在に関しては、全職員が認識できるよう、研修会等に病院として取り組んでいきたい。

→院内ではまだ研修会等に行っていないが、個々で研修は受講している。

9. 基盤整備A(人材育成など)

職員の異動の多い当院では、多職種の協力によるチーム医療の充実で、診療の質の向上を図る(もしくは質を維持する)ことが必要と認識している。緩和ケアや化学療法など各分野で専門看護師や薬剤師の育成に努めることが課題である。昨年度は看護師一名が緩和ケア認定看護師の教育課程に進んでいる。本年度も看護部を中心に認定看護師、薬剤師の育成に努めたい。具体的な計画は新年度体制となってから策定の予定である。**緩和ケア認定看護師の教育家庭は修了し、今年度秋頃に認定審査の試験を1人受験予定。**

10. 基盤整備B(がん登録、進捗確認など)

現在、中級認定者は1名のみであるので、他の初級認定者にも研修の機会を作り、レベルアップを図りたい。

→初級認定者の職員が来年の中級認定者取得に向け受験予定である。

11. 基盤整備C(研究、がん教育、啓発、患者・市民参画など)

現時点では計画できていない。

→市の教育委員会からがん講師の要望はまだ来ていないが、要望があれば対応していく。